

山行報告

■三瓶山（企画：山域研究会 “おいらくの山”）

●日 程：10月1日(火)～2日(水)

●参加者：A班 L 上田 SL 小田 笹木 田中(重)

B班 L 佐々木 SL 大谷 田中(由)

●行動記録：

（1日）：出雲市駅(12:17 着) レンタカー12:50 発－別府公民館(14:05 着) 14:40 発～やなしお道入口(14:45 着)～倉橋工務店 291 号線沿い(15:40 着)－別府公民館(16:20 着)－湯抱温泉(16:30 着)

（2日）：中村旅館 9:00 発－千原温泉(9:15 着入浴) 10:20 発－出雲大社(11:50 着昼食) 12:30 発～大社参拝 13:30 発－出雲市駅(14:00 着) 特急やくも乗車 16:42 発

◆山へ登る前から大遭難！ 三瓶山はいずこへ？

笹木

10月1日、朝から快晴。姫路駅に集合して、新幹線で岡山まで行き、出雲行特急列車「やくも」に乗り継いだ。初めて乗車する「やくも」のセミコンパートメント席に期待ワクワク。全車両中に2席しかなく、リーダーが苦勞して取って下さった貴重な席に女子4人が座らせてもらった。この席は4人掛けのBOX席で、座席シートが前にスライドしてフラットになり、足を伸ばしてくつろぐことが出来る。お座敷列車のようなゆったりした席で、岡山で買ったとりどりの駅弁当を食べながら、出雲まで3時間の旅を楽しんだ。

出雲駅からレンタカー2台に乗り合わせ、本日のメイン山行「やなしお自然遊歩道」の起点となる別府公民館まで行く。車一台は遊歩道終点にデポし、ウォーキング組と終点でゆっくり組に分かれた。私達ウォーキング組は、「やなしお道」を3時間歩いて湯抱温泉まで行く予定だった。



「やなしお道モデルコース」の地図を片手に、リーダーに指示された道の標識も確認して、5人そろって一本道を歩き出した。彼岸花があちこちに咲いて、ススキが揺れるのどかな里山の風景を楽しみながらどんどん歩いた。車が通れる道で民家もポツポツあったが、野良仕事をしている人を一人見かけたくらいで、車にも会わず、地図にある名所も見当たらない。なんか変だな、とは思いつつ、「銀山街道」と標識があり、他への脇道もなく、山際に赤いリボンが結んである木を見るたび「間違いないよね」と声を掛け合いながら1時間歩いて、舗装された道路が合流した交差点に出た。どの道も広くて標識もなく、どちらに進めばいいのかわからない。

の脇道もなく、山際に赤いリボンが結んである木を見るたび「間違いないよね」と声を掛け合いながら1時間歩いて、舗装された道路が合流した交差点に出た。どの道も広くて標識もなく、どちらに進めばいいのかわからない。

丁度、道沿いに工務店があり入って尋ねたところ、この道は291号線で、やなしお道からは

全く離れていると言われ、慌ててスマホで現在地を確認すると、なんと、やなしお道よりはるか南方へ道を歩いており、この先いくら歩いても遠ざかるばかりだった。いつもの山行ならヤママップなどで道を確認しながら歩くのだけど、山ではないので誰もスマホに入れていなかった。やなしお道に戻るには、来た道に戻るのが一番早いと言われ途方に暮れた。もう 16 時前である、時間がない。リーダーに電話して迎えに来てもらおうか、いや場所がわからない、一度にみんな乗れない、などと思案していると、工務店の主人が見かねて、たまたま来店されていた業者の方と車 2 台で別府公民館まで送って下さり、そのご親切に甘えることとなった。

どこで道を間違えたのか？スタートしてすぐにあった大看板の所から入って行く道があると言われる。改めて確認に戻ってよくよく見ると、看板の横から民家の畑を通り、小さい橋を渡って山に登って行く道があり、その先の森の入り口に立て看板がみえた。そこまで登って看板を確認すると「やなしお坂 4.5K・湯抱温泉 6.6K」とあった。道路からはとても目視できない。迷う人が多いんですよ、と工務店の主人。

何故、車道から歩道に入っていく地点に案内標識がないのか、改めて疑問に思う。

湯抱温泉で営業している旅館は「中村旅館」一軒だけで、客も一組しか受けないそうで貸し切り状態だった。創業 110 年の老舗旅館で、坪庭を囲んで回廊の奥に部屋があった。床の間も調度品も重厚感があり、切子模様の障子窓に見入ってしまった。廊下の端や部屋の入り口は行灯で照らされ、さりげなく茶花が飾られているなど、どこを見ても趣のある造りで、おもてなしの心が感じられた。気持ちが安らぐ。惜しいことには、二階から見える屋根にビニールシートが幾重にもかかっていた。地震でやられたようだが、これほどの建物になると技術的にも予算的にも大層でなかなか直せないでいるとのこと。

お風呂は冷泉で薪で沸かしている。効能のありそうな土色の温泉には湯の華が浮いて、洗いはそれが結晶になっていて裸足で歩くと痛かった。

お料理も良かった。味は元より、食器にも、盛り付けにも、細やかな心遣いが感じられ、特に茶碗蒸しは何とも言えないまろやかな味付けで女性陣絶賛!! あとで料理長に味付けを尋ねる人もいた。

天気予報では明日は雨。状況をみてリフトで女三瓶まで登って、その先を行ける人は男三瓶まで登るという計画で就寝。

夜中から降り出した雨は朝方も降り続いていた。再びミーティングの結果、安全を考え山は断念して、ここまで来たのだから出雲大社に参拝することに一致し、9 時に出発。途中、日本一ひなびた温泉で人気のある千原温泉に立ち寄った。山奥にひっそりと佇むロケーション。明治 18 年頃に開湯され、切り傷、やけど、皮膚病に良い湯治場として利用され、戦後、原爆被爆者が療養に訪れその効能が広まったと言われる。入浴料 500 円。5~6 人入ればいっぱい湯舟に浸かると、下からポコポコと源泉が湧いて肌に当たるのが心地よかった。一時間浸れば効力大とあったが、冷泉なので寒くなり 30 分で上がった。

出雲大社に着くのは丁度お昼時。「やっぱり出雲そばを食べたい」と、人気のそば屋をナビに入れてやっとたどり着くが運悪く定休日。それなのに店にぞろぞろ人が入っていくではないか。不思議に思って尋ねると、これから撮影が入るので申し訳ありません、と丁寧に断られた。「エキストラ出演頼もうか」とは、つい出た関西人のツッコミ。

あきらめて、出雲大社パーキング前のお店に入った。蕎麦よりもそば団子入りのぜんざいが美味しかった。(と、私は感じた) ぜんざいも出雲が発祥の地ですって。

店を出るといよいよ雨が本降りになって風も出てきた。10 月、出雲は神在月で八百万の神が集まっている。是非ともお参りしなくっちゃ!ですが、私は蕎麦屋の冷房で体が冷えてしまって、

折り畳み傘も頼りないので、一人車で待たせてもらった。大しめ縄をバックに集合写真に入れなくて残念！

帰りの「やくも」は全員セミコン席でビールで乾杯、お疲れ様！

今回は、三瓶山はどこへやら？でしたが、遭難して親切な方に助けられ、老舗の旅館で暖かいおもてなしを受け、秘湯三昧、八百万の神にもお詣りし、思い出に残る山行になりました。運転して下さった佐々木リーダー、小田さん、お疲れ様でした。同行の皆様お世話になりました。三瓶山、いつか必ずリベンジするぞー。



◆三瓶山お湯楽の旅

佐々木

1 回目は、山域研究会おいらくの山の企画で、三瓶山+石見神楽+鄙びた温泉という欲張った計画であったが、石見神楽と鄙びた温泉が上手く結びつかず、鄙びた温泉宿にも断られてボツ。

2 回目は、お月見の計画で、男三瓶の避難小屋で月を眺め、翌日は男→子→孫三瓶と一周するものであった。この案は、トイレの無い避難小屋泊なんて参加者が無いとの意見があり、私も入院したりで体力も落ちてしまい、一泊泊りだが、寝床、食糧、炊事用具一式を担げる体力が無くなったこともありボツに。

3 回目の三瓶山は、お湯楽組と縦走組とのコラボレーションを計画。高齢者優先で参加者を募集。

人数が集まったので、くだんの温泉に予約の電話を入れたが、またもけんもほろろに断られた。そこで 2 番候補の湯抱（ゆがかい）温泉に予約をした。こちらは丁重に受けて下さった。道中は新型“やくも”が運転開始されたので、岡山からセミコンパートメント席で出雲に向かいレンタカーで、と計画はできた。

しかし、山行の 6 日前に 38 度越の熱を出してしまい、もしコロナだったら……。翌日診断の結果陰性。

新型やくもで快適に出雲市に、レンタカーで湯抱温泉に。宿は一軒しかなく（周辺には廃業した宿が数軒）その宿も地震の被害で屋根にシートが……。玄関には香が焚かれお抹茶が出る。中は大きな建物で掃除も行き届いている。温泉は冷泉で薪で加温して希望の温度にしてもらえる。温泉成分が濃いためか湯船の周囲に鍾乳洞の千枚皿の様なものが。湯舟には結晶質の湯ノ花がシャリシャリと。

夕食は、豪華で品数も多く美味であった。てんぷらも頃合いを見計らって熱々のものを出してくれた。

深夜雨が降り出す、屋根のシートを思い出し、「狼より怖いフルヤノモリ」に襲われるのでは……。熟睡。

朝起きると小雨、旨い朝食を済ませ、空を眺めて出発を1時間遅らせて、再度温泉に。さらに雨が強くなり、全員一致で登山中止。傘をさした宿の方に見送られ帰りに寄る予定の鄙びた温泉“千原温泉”に向かう。細い道をたどり、着いた温泉は、湯船の底の板の隙間から源泉と泡がポコポコと。

泉温が低いので長湯はできず。帰りの“やくも”まで時間があるので、さて、次はどこへ？

出雲大社に行く事になり昼飯は出雲そばと、三瓶山のすそ野を蕎麦屋を目指して雨の中をひた走る。

左に三瓶山があるはずなのだが灰色のカーテンで何も見えず。そばを食ってお参りして今回の旅は終。

全くの“お湯楽の旅”でした。三瓶山と旨い料理の宿が待っている。再挑戦に値するかも。季節は？

■女峰山（2483m）・男体山（2486m）

●日程：10月12日(土)～15日(火)

●参加者：L高島 SL尾内 上田 島谷 村上

●行動記録：

(13日)：霧降高原駐車場 3:55 発～小丸山(4:40 着)～赤薙山(6:30 着)6:40 発～赤薙奥社跡(8:00 着)8:05 発～一里ヶ曾根独標(9:15 着)～女峰山(10:55 着)11:25 発～一里ヶ曾根独標(12:50 着)13:00 発～赤薙奥社跡(13:55 着)14:00 発～赤薙山(15:00 着)～小丸山(16:10 着)～霧降高原駐車場(16:35 着)

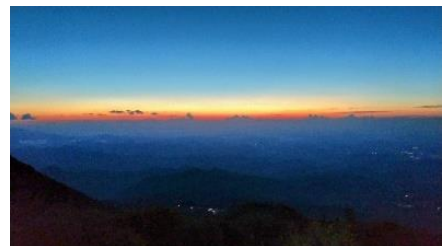
(14日)：二荒山神社中宮祠 6:00 発～三合目(6:50 着)7:00 発～四合目(7:25 着)7:30 発～五合目(7:55 着)8:00 発～八合目避難小屋(10:00 着)～男体山(11:10 着)12:30 発～八合目避難小屋(13:10 着)13:20 発～四合目(15:45 着)～三合目(16:07 着)～二荒山神社中宮祠(16:40 着)

◆日光連山・女峰山 2,483m（2024.10.12～13）

村上

10月12日午後、東武日光駅からレンタカーで宿泊地に向かう。荷物を置き、曇り時々雨の中、明日の出発地点の霧降高原駐車場までドライブ。明日は余裕がないだろうとレストハウスでシフォンケーキ&コーヒーを堪能。熊撃退スプレー持参で下山してきた方に山の様子を尋ねると、「定期バスの時間もあり、登山中の雨とホワイトアウトで寒さもあり女峰山まで約1時間の所で途中下山してきた。途中で熊の鳴き声も聞いた。」とのこと。明日の天気期待して早々に宿に戻る。

10月13日早朝3時25分には宿を出発。駐車場は既に満杯状態。暗闇の中ライトをつけて3時55分に霧降高原1,445段の階段を登り出す。満天の星空に向かって登り、まるで星空に吸い込まれていくようだ。小休止では、星座の名前を言い合って和気あいあい。周りはスニーカーの若者で登山者は見当たらない。小丸山展望台を4時40分通過、斜面は一面ツツジの群生地が続き、登山道は四方八方にあり滑りやすい道で要注意です。登っていくとゴロゴロの岩場になり、岩場で思い思いにご来光を見ながら朝ご飯。こんな幸



せな朝があるから登山がやめられない。足元の低い笹原を抜け、鹿の鳴き声を聞き、滑る登山道の樹林帯を抜けると 6 時 30 分やっと赤薙山に登頂。何人かの元気な若者はスニーカーのままで、勢いでここまで登っていた。



ここからは急な下りの後また昇り、足場は根っこや岩で一喜一憂。赤薙奥社跡に 8 時に着いた。U さんが「私は、今日はここまでにします。赤薙山で皆さんを待ちます。」私は「えーやめちゃうの。U さんが頼りだったのに…」心細い思いで出発。岩場や危険な根っこの道を一気に下り降りた分またよじ登りです。尾根道に出るとこれから行く山々が限りなく遠くに見えます。山頂に辿り着く。その一心で前進しました。一里ヶ會根独標からは所々緩い道もありましたが女峰山前の山はロープ頼りの急登で、登り切った所から次の頂で女峰山だと思いとホッと一息。最後の急な下りの後に登りきると女峰山山頂に立つことができました。

ゆっくりと昼食をとり、見渡す山々を眺めて、30 分間山頂を満喫して来た道を引き返す。急なひと山を超えてその次を越えた辺り水場を過ぎてしばらく行くと山の中で何とも聞いた事のない動物の鳴き声が…一様にもしかしてと思いながらそそくさと立ち去る。一里ヶ會根独標まで来てなだらかな尾根で一休み。まだまだ足場をどこにしたらいいか迷うような登山道で、私は一瞬足を滑らせて気が付けば亀がひっくり返った状態になった。少しの時間の後、痛みは無かったので両手を 2 人に引き上げてもらった。下になったリュックサックがクッションになり怪我をしなくて済んだようだ。L が下山中の若者に赤薙山頂で待つ U さんにゆっくりと下山してレストハウスで待つように伝言をお願いする。もう待ちくたびれているだろう。赤薙奥社跡から更に一時間。足は勝手に動いている。赤薙山頂に U さんの姿は無かった。伝言は届いたのだ。滑る下山道を右往左往して小丸山展望台の上に立った時、1,445 段の階段を見下ろしやっとここまで来たと安堵の思いがした。淡々と一気に階段を下る。周りは青春真っ只中の若者達ばかりです。ニコウキスゲが一面に咲く頃、また訪れてみたいものです。16 時 35 分レストハウスに到着し、U さんとも合流。まだ、ここから東武日光駅に戻り中禅寺湖畔の宿までバス移動がある。長い長い一日でした。



と一気に階段を下る。周りは青春真っ只中の若者達ばかりです。ニコウキスゲが一面に咲く頃、また訪れてみたいものです。16 時 35 分レストハウスに到着し、U さんとも合流。まだ、ここから東武日光駅に戻り中禅寺湖畔の宿までバス移動がある。長い長い一日でした。

◆「今日も天気だ、男体山」

島谷

14 日 6 時、二荒山（ふたらさん）神社中宮祠でお守りをいただき「今日は U さんを先頭に歩きます」のリーダーの声で出発しました。森の中では猿たちが声をだして木を行き来しています。3 合目から 4 合目は歩きやすい林道で、その先から「観音薙（かんのんなぎ）」登山道。大きな岩がゴロゴロとあり本来の登山ルートがあるものの、それが決して登りやすい岩

ではないため、こっちかな？あっちがいいかな？とかなり集中力が必要で、身体も頭も疲れました。途中、白い雲の上にポツコリと富士山の頭が見え皆で歓声をあげました。しだいに雲に隠れてしまい「やっぱり午前中が勝負やな」と富士山を拝めたことを喜び合いました。頂上直下の急登では、頂上から登山者を見下ろしている下山者が幾人もいて、私達は「もう少しやで」「もうそこや」と励まし合いながらの登頂ゴールでした。

頂上はとても広く、中央の「二荒山神社奥宮」から「御神剣が祀られている」北方、そして太郎山を背に「太郎山神社」へと移動しながら賑やかに散策しました。前日に苦しみながら歩いた女峰山、日光白根山そして尾瀬の燧ヶ岳をしっかりと確認し、2486m山頂で1時間20分ものんびり滞在できて大満足でした。下山も、ほとんどの下山者に道を譲ることとなり、3合目より下の森の中はだいぶ暗くなりましたが、大きな怪我なく中宮祠まで歩けました。5分程度の休憩をこまめに入れてもらい、苦しい中でもいいペースで歩けたのは、リーダーの綿密な計画のおかげです。行動時間・約11時間、私達は頑張りました。プラス、宿まで30分の歩行付きで元気な面々です。下山時に他の下山者が足を捻挫して歩きづらそうでした。救急ボランティアをしてさしあげ「頼もしい山の会だ」と感じました。

最終日は、足尾銅山のトロッコ見学・わたらせ鉄道乗車・富弘美術館（画家詩人の星野富弘さん作品展示）を見学し、各々何かしら心を感じる時間をもてました。過酷で素敵な4日間でした。

